

初級レベルの日本事情クラスにおける教材紹介 ー日本語による食文化の講義の理解促進のためにー

阿部 美恵子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本学の交換学生対象の選択科目「現代日本文化 1」は、初級～中級前半の交換学生向けのクラスで、日本語で授業を行う。クラス運営上の問題として、学生の日本語レベルのばらつきが大きいことと、一番下のクラスの学生はひらがな・カタカナの学習のみで留学してきており、理解できる日本語が非常に少ないことが挙げられる。本稿では、2013年度秋学期に授業後半の日本の食文化¹で行った実践を報告する。

2. 理解促進のための工夫

初級前半の学生が、日本語だけの講義についてこられるよう、教員が語彙コントロールを行うことはもちろんだが、視覚で日本語力の不足が補える教材作成・授業活動を行った。例えば、和菓子の季節感を学ぶ際には、①12の和菓子の写真カードを見てグループで季節を考える、②画像を多く取り入れたPPTでの簡単な説明、③DVDでの全体振り返りを行った。DVDは「NHKトラッドジャパンDVD」「NHK京菓子を楽しむ（録画）」を視聴した。前者は英語で日本文化を紹介するものである。後者は日本語のみだが、必要な部分のみ聞き取るよう指示し、適宜簡単な日本語で補足した。

3. 授業後のふりかえり

全学統一アンケート²では、「この授業を進行する担当者の声の大きさや話し方は適切であった（4.9）」、「担当者が学生の理解度を確認しながらこの授業を進める工夫をしていた（5.0）」、「担当者は十分に準備をしてこの授業に臨んでいたと感じた（5.0）」、「全体としてこの授業に満足している（4.9）」と、いずれも高評価であった。

また、学期末アンケートのコメントでは、“The professor was able to adapt to the Japanese level of the students while keeping the class interesting.” “Though my Japanese level is low, I understood nearly everything.”とのコメントがあり、簡単な日本語での講義を理解するという本クラスの目的は、教材や活動の工夫で達成できたと考えられる。

¹ お茶、お菓子、盛り付け、マナー、お弁当、日本料理の特徴、日本人の食生活を扱った。また、京都へのフィールドトリップを行い、デバ地下体験、錦市場見学、和菓子作り体験をした。

² 17名中15名が回答。5点満点での評価。